



おざわ・はるお 静岡市出身。東京教育大(現筑波大)大学院修了。東海大体育学部教授、スポーツ医科学研究所教授を経て2017年から静岡産業大教授。20年4月から現職。71歳。

スポーツ科学 新学部開設へ

静岡産業大磐田キャンパス(磐田市大原)に来年4月、「スポーツ科学部スポーツ科学科」が開設される。スポーツ分野に特化した独自の学部。学長特別補佐で新学部長予定者の小沢治夫氏に開設の目的や教育の特徴を聞いた。

「目指すものは、
「する、見る、支える、知る」の相互に相関する四つの観点から、スポーツの価値を広く深く学んでいく。科学といえは自然科学を想起し

本音インタビュー
静岡産業大学学長特別補佐
・学部長予定者
小沢 治夫氏

多角的に価値学び 応用

やすいが、ここではビジネスや文化、健康医学、社会などスポーツを中心とした文理融合の幅広い捉え方だ。裾野が広く、暮らしを豊かにするスポーツに将来にわたって携わり、地域に貢献できる人材育成が目標だ」

「教育の特徴は、
「新学部は現在の経営学部内にあるスポーツ経営学科を独立させ拡充した。定員は120人。運動時の体の仕組みを学ぶ運動生理学やトレーニング科学、医学、心理学、文化、子どものスポーツなど、多角的にスポーツを学ぶことができる教育課程を組み、全国から各分野の1線の教授陣を招いた。学生の興味や関心、卒業後の進路に応じてスポーツ科学実践、健康づくり、スポーツ教育の三つの履修モデルを提示する。体操施設の充実度は全国でもトップクラス。数値データに基づ

ついたトレーニング考案につながる筋肉の超音波診断装置など最先端の機器も備えている」

「人材輩出の方向性は、
「トップアスリートや指導者、スポーツビジネスを展開する民間企業社員、スポーツ行政を担う自治体職員など、幅広い領域で活躍できる人材を養成する。スポーツ関連の知識や実践の習得は、長い人生の多様な場面で活かし、応用できると考える。スポーツが好きだという学生に学びにきてもらい、成長をサポートしていきたい」

「地域との連携は、
「県西部地域は、Jリーグサッカーやラグビーをはじめ、他にも企業のスポーツチームが拠点を置き、スポーツが生活に根付いている。その価値や意義を発信するに最適な土地柄だ。カレッジスポーツを統括し、スポーツを通じた地域貢献を目指すスポーツ振興部を2年前に立ち上げ、大学スタッフや学生が運営するスポーツスクール、中高年向けの健康増進教室を展開している。こうした連携を今後も推し進めていく。包括連携協定を結ぶ地元の磐田市とも、さらに協力体制を深めたい」

静岡新聞社編集局調査部許諾済み